

ナス「ヒゴムラサキ」の夏秋栽培における仕立て法

ナス「ヒゴムラサキ」の夏秋栽培(4月下旬定植)では、V字3本仕立てとすることで、生育が早くなり、収量も10aあたりで約16tが得られる。なお、垣根仕立てでは、5~7月の初期収量が高まる。

農業研究センター農産園芸研究所野菜研究室(担当者:古閑三恵)

研究のねらい

熊本県では、良食味の「熊本長ナス」系統である新品種「ヒゴムラサキ」(平成16年品種登録)を育成したが、この品種は果実が大きいため草勢維持が難しく、生産が不安定となりやすい。そこで、「ヒゴムラサキ」の夏秋期の安定生産を図るために最適な仕立て法を明らかにする。

研究の成果

1. 夏秋栽培では、V字仕立ての場合、仕立て本数を3本にすると、草丈の伸長が早く高温期の草勢が維持され、5~10月の収量はおよそ16tが得られる(表1、表2)。
2. 垣根仕立ての場合、垂直に誘引するため受光体勢が向上し、比較的単価の高い5~7月の初期収量がやや多くなる(表2、図1)。

普及上の留意点

1. 垣根仕立ては、V字仕立てと比べ、本数が同じ3本仕立てでも定植株数が約1.5倍と多いため、定植作業に要する労力と苗の費用が増加する。
2. 「ヒゴムラサキ」は、30℃を超える高温時には着色不良果が生じやすいため、中山間地での露地栽培または雨よけ栽培とする。

表1 ‘ヒゴムラサキ’の夏秋雨よけ栽培における生育特性(平成15年、4月25日定植)

仕立方法	仕立本数	6月の草丈	1主枝	果房間長
		(cm)	着果数	(cm)
V字	3本	142.3	8.0	15.5
	4本	135.5	7.3	16.7
垣根	2本	150.9	7.7	16.5
	3本	156.9	7.9	15.8

注) 1主枝着果数および果房間長は終了時に測定、果房間長 = 第2果以降の着果節間長の平均

表2 ‘ヒゴムラサキ’の夏秋雨よけ栽培における収量特性(平成15年、4月25日定植)

仕立方法	仕立本数	定植株数 (株/10a)	可販果率 (%)	可販果収量(/10a)		可販果 一果重(g)
				果数(本)	重量(t)	
V字	3本	833	82.5	56,783	16.1	283.9
	4本	625	80.1	49,375	14.1	285.7
垣根	2本	1667	83.0	55,289	15.3	277.6
	3本	1111	78.0	53,884	15.1	280.9

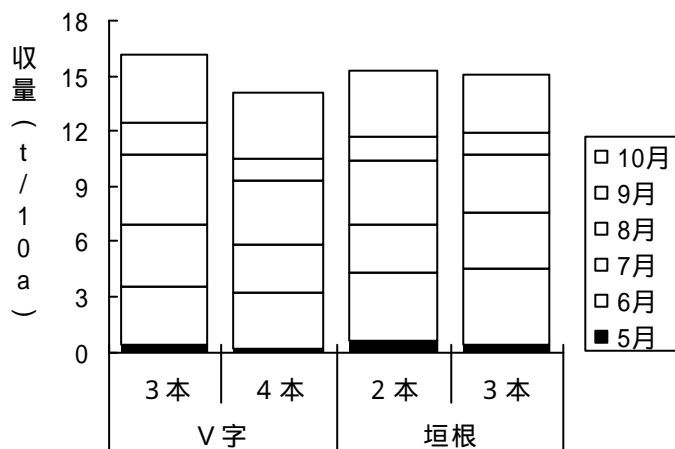
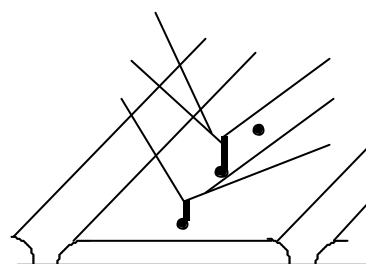


図1 月別可販果収量



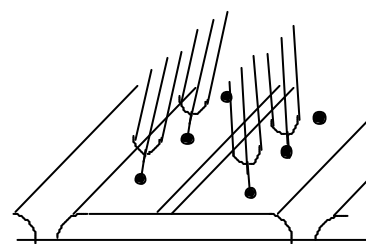
V字誘引(3本仕立て)

(備考)

V字誘引: 1条植え、畝幅2m、株間60cm(3本仕立て)、
80cm(4本仕立て)

垣根誘引: 2条千鳥植え、畝幅2m、株間60cm(2本仕立
て)、90cm(3本仕立て)

基肥 N : P₂O₅ : K₂O = 36 : 16 : 20 (kg/10a)、追肥各20
(kg/10a)とした。



垣根誘引(3本仕立て)